

第6次 小牧市総合計画

新基本計画

2014-2018



みんなで一緒に、育っていききたい。



小牧市民憲章

わたくしたち 小牧市民は、小牧を

- 1 健康で生きがいのある 明るいまちにしましょう
- 1 感謝と思いやりのある あたたかいまちにしましょう
- 1 緑とやすらぎのある 美しいまちにしましょう
- 1 高い文化と教養のある 豊かなまちにしましょう
- 1 希望と働く喜びのある 活気あふれるまちにしましょう



第6次 小牧市総合計画

新基本計画

2014-2018

市長あいさつ



本市は、平成 21（2009）年 3 月に、平成 21（2009）年度～ 30（2018）年度を計画期間とする「第 6 次小牧市総合計画」を策定し、“人と緑 かがやく創造のまち”を将来都市像に掲げ、今日までその実現に向け、まちづくりの各種施策を展開してまいりました。

この間、人口減少社会の到来、少子・高齢社会の進展、地球レベルでの環境問題の進行、情報技術を中心とする急速な技術革新など、本市を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。

あわせて、地方分権の進展に伴って発生する新たな行政需要や、多様化している住民ニーズに対しても、新たな対応が求められています。

こうした状況を踏まえ、策定から 5 年が経過する基本計画について、これまでのまちづくりの検証を行い、社会情勢の変化で生じた新たな課題に挑戦していくために必要な施策を見直し、「第 6 次小牧市総合計画新基本計画」を策定しました。

この「新基本計画」は、市の将来人口が減少傾向に転じるという予測の下、従来に増して経営資源の有効活用を図る観点から、「分野別計画編」とは別に「市政戦略編」を策定し、市政の軸となる考え方や戦略を示し、それを実現するための重点事業が明確となるメリハリのついた計画とし、市民の皆様にとってわかりやすく、職員が業務の羅針盤として活用しやすい計画としています。

今後の 5 年間、この計画のもと、市民の皆様と一緒に将来をしっかりと見すえ、「住みたいまち、住み続けたいまち」の実現に取り組んでまいります。

本計画の策定にあたりまして、ご尽力を賜りました総合計画審議会委員の皆様、市議会議員の皆様をはじめ、貴重なご意見、ご提言をいただきました市民の皆様に深く感謝申し上げます。

平成 26 年 3 月

小牧市長 山下 史守朗

小牧市総合計画審議会 宮脇会長寄稿



少子高齢化やグローバル化が急速に進み、日本社会が大きく変化する中で、自治体経営において小牧市が新しい挑戦を始めています。その起点がこの「第6次小牧市総合計画新基本計画」です。新基本計画では、市民・議会・行政が今まで以上に役割分担と連携を行うことを前提に、地域の持続的発展への方向性を見据5年間の政策の柱を明確にするとともに、機動的な自治体経営の仕組みの導入を意図しています。

このように、地域の文化に根差した一歩先を見据え新たな総合計画の姿を模索する小牧市の姿勢は、自治体経営の基本として日本の自治体をリードする役割を担っています。

新基本計画の政策は、様々な考え方・価値観を持つ市民が常に議論し、より良い内容を求め続けるものであり、100点に一步でも近づけることはできても100点というゴールに到達することはありません。今回の新基本計画策定の過程においても、議会から多くの意見を頂くとともに、市民の皆さんを中心に構成された審議会でも様々な角度から100点に一步でも近づけるための議論を行いました。

日本の地方自治体の先駆的取組として動き出した新基本計画をより良い姿にするためには、新基本計画に関連する情報を市民・議会・行政が常に共有しつつ議論し、予算や条例など様々な角度から市民や議会のチェックと助言を受け、進化させ続ける必要があります。すなわち、行政から「与えられる自治」から、市民・議会・行政がともに「生み出していく自治」への進化と言い換えることができます。

この新基本計画の実施に際して、地域の問題や進むべき方向性について形式にとらわれず市民・議会・行政の間で常に情報共有し、従来にも増して実質的な議論を展開することができるよう、市民の皆さんも「生み出していく自治」の担い手となることを期待しています。

平成26年3月

北海道大学公共政策大学院 教授 宮脇 淳